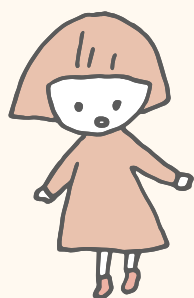


# とうきょうすくわくプログラム 2025年度活動報告書



## ピノキオ幼児舎和田保育園



法人名：株式会社ピノコーポレーション  
住所：東京都杉並区高円寺南4-26-16  
ビクトリアプラザ高円寺3階

# テーマ

「体の中身を  
知りたい！」



「お腹がすいたら  
どうなるの？」

【テーマ】

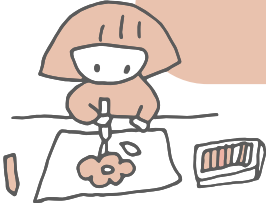
「体」

【設定理由】

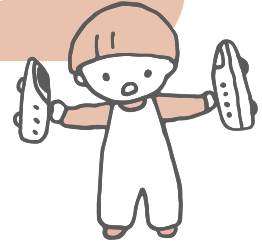
ピノキオ幼児舎和田保育園の子どもたちは、日頃より「運動遊び」を楽しんでいる。日々の取り組みの中で、運動時の骨の動きや体の動かし方について「もっと知りたい」という発言や思いが見られたことから、より深い学びにつなげることを目的として、本テーマを「体」と設定し、探究活動に取り組んだ。体の臓器や骨の仕組みについては、エプロンシアターや科学館での現地調査等を通して理解を深める活動を実施した。



# 活動のスケジュール

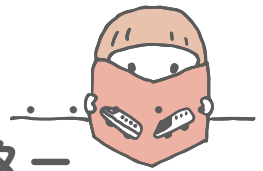


～令和7年6月から令和8年2月まで～



1 回目 Jun. 活動内容を子ども達と決める

2 回目 Aug. 魚の解体ショー  
～人間以外の臓器を知ろう～



3 回目 Oct. 人体のエプロンシアター

4 回目 Nov. 多摩六都科学館へ実地調査

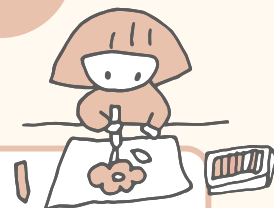
5 回目 Feb. 耳の部位の探究活動(音と耳の関係)

6 回目 Feb. 食と体の関係(親子クッキング)

7 回目 Feb. まとめ



## 活動のために準備した 素材や道具、環境の設定



- ・臓器の種類を知る為に、魚の解体ショー用の魚。
- ・子どもや保護者が、自由に体の仕組みを調べるためのPC。
- ・体の仕組みを知る為のエプロンシアター。
- ・多摩六都科学館へ現地調査する為の費用。
- ・耳と音について関係性を調べるための電子ピアノ費用。
- ・3グループに分かれて、「骨」「お腹がすく理由」「臓器」を調べた。

## 活動の内容



「体」という大きなテーマのもと、「体の骨はどうなっているの？」  
「お腹がすいたらどうなるの？」「体の臓器ってなに？」の3つのグループに分かれて探究活動を行った。体の臓器や骨の種類については、魚の解体ショーを通して実際に見たり触れたりしながら学んだ。また、体の臓器を題材にしたエプロンシアターでは、人間の臓器の実際の大きさを知る貴重な機会となった。さらに、科学博物館での現地調査をきっかけに、体の「耳」にも興味が広がり、耳と音の関係性について調べる活動へと発展した。そして最終的には、体をつくるもととなる「食事」にも関心が高まり、親子クッキングを実施した。その際には、これまでの活動についての報告も行った。

# 活動内容①

## 魚の解体ショー



「あかいね!」「茶色いよ」  
「このかたいものはなんだろう?」



魚の解体ショーでは、園児の「赤いね」という声や、触ると「硬い」「やわらかい」と五感を使って体験した。

「なんで歯がぎざぎざしているんだろう?」「目はどうして離れているの?」などの鋭い気づきもあった。その後、描画活動を行った。

人体のエプロンシアターでは、自分の体を触ってみたり、エプロンシアターを使って臓器の確認を行い、体の仕組みを学んだ。

## 人体のエプロンシアター



保育士：「体の中をみてみよう!」

園児：「これが心臓?」

園児：「これはどこにつながっているの?」



## 活動内容②

### 多摩六都科学館へ実地調査



園児：「体はどうなっているの？」  
園児：「科学館で調べたい！」  
保育士：「行ってみよう！」



「実際に科学館で調べたい！」という園児の希望を受けて、  
9月は多摩六都科学館を見学した。

展示物や体験装置を通し、身体への知識をさらに深めた。

子ども用カメラを持参すると、標本や魚だけでなく、  
観察する友だちを撮る子もいた。その写真を使って新聞づくりも行った。  
帰園後の振り返りで発見を報告し合う姿があり、知的好奇心が高まった。

「科学館にはこれがあったね」  
「これは図鑑とおなじなの？」



# 活動内容③

## 耳の部位の探究活動 (音と耳の関係)



「なんで動くの？」  
「低い音だとよく跳ねるね！」



科学館の見学をきっかけに、「耳」にも興味が広がった。12月は「音はどこから聞こえる？」という問いから、身の回りの音や友だち同士で心臓の鼓動を聴き合い、「どくんどくん」と響く音に夢中だった。また、スピーカーに乗せた塩の振動を観察。音の高低で動きが変わる様子に釘付けになり、低い音ほど激しく跳ねる塩の動きに大注目していた。さらに、ピアノに合わせて「拍手・足踏み・肩をたたく」などの身体を動かす遊びへ発展。喉に触れて「声を出すと震えてる！」と、音と身体の振動が繋がっていることを実感。五感を通した発見が、子どもたちの探究心を引き出していた。

「さっきの音とちがう！」  
「どうして同じじゃないの？」



# 活動内容④

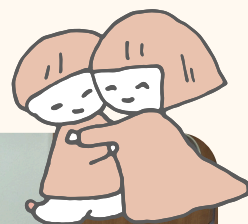
## 食と体の関係 (親子クッキング)



「お料理楽しいね！」  
「一緒にできてうれしい！」



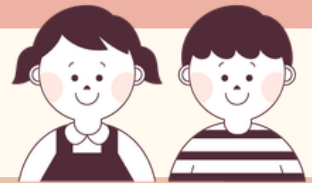
「食えると力が湧くのはなぜ？」という食への疑問や、保護者に料理を振る舞いたいという意欲を形にするため、親子クッキングを実施。タコライスやスープ等の調理を通じ、グループ内で切る・炒める等の役割を主体的に担う姿が見られた。食事中には子供たちが自ら作成したドキュメンテーションで活動を報告し、学びを共有する喜びと自信に繋がった。



「これ見て！私たちが作った！」  
「いままでこんな活動をしたよ！」



# ふりがえり



## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちの発想や発言を大切にしながら活動を進めた。園児の「体の中身を知りたい!」という声から園でエプロンシアターを実践したり、「実際に科学博物館で調べたい」という希望を受けて現地調査を行ったりと、子どもたち主体で活動を展開することができたと感じている。最後の親子クッキングでは、子どもたちが中心となって、すくわく活動の報告ドキュメンテーションを作成した。子どもたちの提案や思いを大切に、実現できるように必要な環境設定や援助を共に考えながら進めていった。

## <振り返りによって得た先生の気づき>

体の探究活動を通して、子どもたちの想像力や発想力、協力性など、さまざまな面での育ちを感じることができた。グループ活動を進める中で仲間意識が高まり、「自分も参加したい」と意欲的に関わろうとする姿が見られるなど、非認知能力の向上も感じられた。また、グループの中で自分の役割を見つけようとする姿も見られた。クラス全体で、すくわくプログラムを作り上げていったように感じている。探究活動においては、必要に応じて援助しながらも過度に手を出しすぎず見守り、子どもたちの主体性を信じた声かけを行うことの大切さを改めて実感した。

